

第4段階 ガリラヤの大宣教 E. 十二使徒の任命と山上の教え

10. 山上の教え、第9部：

神を愛するという事は、神が最も愛する者として生きるということである

デイリージーザスニュース #076

基本テキスト: MT 6.25-34 (並行テキスト: なし)

25だから、わたしはあなたがたに命じます。自分の命のことで、何を食べようか、何を飲むだろうと心配し、また、自分の体のことで、何を着ようかと心配してはいけません。命は食物よりも大切であり、体は着物よりも大切ではありませんか。26空の鳥を見なさい。種を蒔かず、刈り入れもせず、倉に蓄えもしません。しかし、あなたがたの天の父はこれを養っておられます。あなたがたは、鳥よりも、もっと大切な者ではありませんか。27あなたがたのうち、だれか思い煩って、自分の命を一刻でも延ばすことができましようか。

28なぜ、着るものことで思い煩うのか。野の花が育つ様子を見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。29しかし、言うておくが、栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。30神は、きょうは生えていても、あすは火に投げ込まれる野の草でさえ、このように着飾って下さるのなら、まして、信仰の薄いあなたがたには、なおさらよくして下さらないはずがあろうか。

31だから、わたしはあなたがたに命じます。『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言うて思い煩うのはやめなさい。32異邦人はこれらのものを追い求めますが、あなたがたの天の父は、あなたがたにそれが必要なことを知っておられます。33わたしはあなたがたに命じます。まず第一に、あなたがたのうちにある神の支配と神の義とに自分を明け渡すことを求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて加えて与えられます。34だから、明日のことについて思い煩うな。明日のことは明日が思い煩う。一日の苦勞はその日で十分である。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルーク = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤの山で
タイムライン	西暦31年5月 (第16月)

第4段階 ガリラヤの大宣教

イエスの生涯	第4段階: ガリラヤの大宣教
	E. 十二使徒の任命と「山上の教え」
タイトル	10. 山上の教え、第9部 神を愛するという事は、神が最も愛する者として生きるということである

コメント：

今日の朗読は昨日の朗読の考えを引き継いでおり、「**したがつて...**」で始まります。今日の朗読の真理には、イエスが以前に言ったことに基づいた結論が含まれています。この節には、重要な命令とそれを支える根拠が含まれています。まずは根拠から始めましょう。

前の朗読で、私たちの無比の最高の愛は神だけに捧げられるべきであることがわかりました。神だけが私たちの究極の愛に値します。しかし、私たちが神を愛することができるかどうかは、神が私たちに対して無条件で先に与えてくださる愛にかかっています。神に対する私たちの愛は、神が私たちに対して抱くはるかに大きな愛への応答としてのみ可能になります。神の私たちに対する愛の偉大さと確実さが、イエスの命令の根拠です。この聖句は、神の私たちに対する愛をどのように示しているのでしょうか。

この聖句でイエスは山上の弟子たちの注意を父

の愛と創造物に対する摂理的な配慮に向けました。彼らは私たちのほとんどと違って自然に近い生活を送り創造主としてのイエスの、力の栄光と美しさを毎日体験していました。日の出と日の入りは彼らにとって、イエスの日々の視覚的な栄光の芸術作品でした。花、果物、季節、動物、鳥、食物、種子、昆虫の色彩は、人工物の人工的な色合いよりも、彼らの生活を明るくしていました。すべての生き物に対する神の摂理は、彼らの目の前ですべての生き物が維持され繁栄する様子から明らかでした。イエスが花の美しさについて、または父が鳥に餌を与える様子について語ると、弟子たちにはそれがすぐに分かりました。

イエスは聴衆に、自分の命をすべての被造物の中で神の愛の最高の表現として大切にするように教えました。人々に対する神の摂理的な愛は、彼がいつも世話をしている動物に対する愛よりも大きいです。同様に、愛する人々のために衣服を与えたいという神の愛情深い願いは、花に対する彼の世話よりもずっと大きいのですが、神は花にさえも見事な方法で衣服を与えます。イエスは、神が創造物の頂点として最も、そして最高に人間を愛していると言っていたのです。

神は無限の宇宙の中で一人ひとりを最も愛しているので、私たちの必要をよく知っています。結局のところ、神はそもそも私たちに必要があるように創造したのです。神の人々に対する情熱的な愛は、神が他の被造物よりもずっと私たちの必要を満たすことに尽力していることを意味します。イエスの十字架上の死は、将来この真実を限りなく証明するでしょう。イエスはハマグリや馬やバラのために死んだわけではありません。イエスはすべての人のために、たとえ私たちが敵であったとしても、死んだのです。

イエスがガリラヤの山上で弟子たちに語ったとき、父が創造されたすべての生き物の必要を満たした方法に訴えたことは、父が一人ひとりを愛し大切にしていることを示す最も強力な論拠でした。イエスは限りない愛によって私たちを創造し、私たちの必要を知り、その必要を満たすために必要なものをすべて提供し、私

第4段階 ガリラヤの大宣教

たちに神の豊かさを永遠に届けるための完璧な計画を立てました。それゆえ（これが今日の朗読の冒頭でイエスが述べた「それゆえ」です）、イエスは私たちの必要はすべて満たされることを保証する命令を与えました。

イエスは、私たちに対する神の意志、つまり神がその完全な全知において私たち一人一人にとって「正しい」とみなした意志に、全神経を集中し続けるようにと私たちに命じました。神は完全な愛です。神は完全な知識を持っています。神は宇宙のあらゆる資源を支配下に置いています。神はイエスにおけるご自身の富に応じて、私たちのすべての必要を満たす意志をすでに形成しています。したがって、人生において完全な満足感と最高の満足感を得る唯一の確実な方法は、神の完全な意志に従順に従うことです。

だからこそ、イエスは命令に素晴らしい約束を付け加えたのです。「私はあなた方に命じます。まず第一に、あなた方の中で神の統治と神の義に身を委ねるよう絶えず努めなさい。そうすれば、これらの他のすべてのものは、共に与えられます。」究極の喜びと満足感に寄与する「これらの他のすべてのもの」を経験する唯一の確実な方法は、私たちに対する神の計画に常に完全に従うことに集中することです。

イエスは、かつて生きていた人の中で最も喜びに満ち、満たされた人でした。父が立てた計画に常に従おうと努めることで、完璧さを達成しました。死ぬときに人生を振り返って、「あれは完璧だった。文字通り、これ以上のことはあり得なかった！」と言えるところを想像してみてください。イエスは、そう言える唯一の人でした。イエスは、すべての人に対する神の無限で無条件の愛が、私たち一人一人のために完璧な計画を練らせたとき、自分が何を言っているのかを正確に理解していました。私たちの現世と永遠の喜びは、その計画だけに集中して熱心に従順を追い求めることにあります。神は、神以外に必要なものをすべて与えてくださいます。本当にそれだけのことです。

応用：

私たちのほとんどは、神が私たちに何をさせるかと思うと怖くなるので、神の意志に身を委ねることを恐れています。この恐怖の根底にある思い込みは、私たちが本当に満足できるものは神よりも私たちのほうがよく知っている、そして私たちのほうが神の条件よりも自分の条件で満足感を得る能力が高い、というものです。

この種の考え方には、致命的な欠陥が2つあります。まず、私たちは罪深いので、あらゆる状況で自分にとって何が最善かを知り、実行できないという事実を無視しています。次に、神だけが完全な愛と全知の両方を持っているという真実を無視しています。したがって、神だけが、私たちにとって最善のものを保証する完璧な計画を立てることができます。神の意志は、私たちの罪深さと限界からの唯一の確実な救済であり、私たちの幸福を妨げるものではありません。

の意志を知り、それを実行することに関して、天国的な態度を祈るようというイエスの教えは、非常に意味を成しています。私たちの罪深さは、神の意志を自分にとって最善のものとして求めることから始めることがないことを意味します。しかし、私たちが従順に関して敬虔な態度を毎日祈るにつれて、神はそれを私たちに与え、私たちは神の意志に従うことにますます熱心になります。祈りは、神の意志に対する態度を変える鍵です。

の意志を行うために、何を諦めるのが怖いのですか？

第4段階 ガリラヤの大宣教

この恐怖にしがみつくと、あなたの本当の満足感は確実に破壊されます。神の愛とは、神の意志があなたにとって最善であることを意味します。

どのように恐怖を乗り越えて、神の意志を行うという燃えるような愛へと祈るのでしょうか？